

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0322 NO112

校長 伊波喜一

ありがとう 門出の言葉 感謝込め 晴れの舞台に 決意響かん

江古田小の第115回卒業式が成功裏に終わった。総計14131人の卒業生が、本校を巣立っていった。社会に有意たる人材を輩出していることに、歴史の重みを感じる。古語には**陰徳**と**陽報**の関係は**陰徳あれば陽報あり**と言っている。隠れての徳を積み重ねることが、良い結果を生むということであるが、この2つは互いに連関している。例えば、地域や保護者の思いと関わりが因となり、卒業という果となって現れる。今度は卒業生たちが社会貢献していくことが因となり、伝統という果となって地域に還元されていく。この弛みない繰り返しのうちに、本校の地域性が築かれてきたのだ。その根本には**感謝**が横たわっている。卒業証書を受け取る前に卒業生一人一人が抱負を述べた。そこには、この感謝の言葉が述べられていた。友達・保護者・下級生・先生等への感謝を心から口に出せる子ども達は素敵だ。そして未来への宝だ。筆者は式辞の中で**持続**と**挑戦**の二文字を贈ったが、彼らが感謝の心で全ての困難に挑み、乗り越え、結果を示してゆくことを、心より祈り応援している。